

No.200(最終号)

令和3年3月24日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

Rising Sun



希望を語るう 夢を語るう

♪ いつのまにか 時は過ぎて

何もかもが 変わったけど

これだけはずっと残っている 素敵なあの日の… ♪



お気に入りのアーティストのうち一人である竹内まりやの「すてきなヒットソング」の1フレーズです。今や“絶滅危惧種”となりつつある昭和採用の私の教員人生を振り返ってみたときの心境として、ぴったりとあてはまる歌詞です。

新卒の頃を思い返してみると、PCはおろかワープロさえ存在しない全てがアナログの時代でした。活字といえば教務主任の先生が作成する月行事予定や週報などの限られた文書で、和文タイプが用いられていました。ほとんどの文書は手書きです。手書きゆえに作成者の個性というか人柄が文面からにじみ出ていました。多くの文書は、いわゆる“先生らしい”整った文字で書かれていて、「自分もいつかあの先生のような文字が書けるようになりたい」と思ったものです。

しばらくすると、ワードプロセッサが登場しました。文字を打つこと以外はほとんど何もできないワープロ専用機が、うん十万円もしました。今では信じられませんよね。その便利さに釣られて、多くの教員が自腹で購入したものです。私もそのうちの一人でした。

それから数年が過ぎると、パーソナル・コンピュータ(PC)が登場しました。最初はデスクトップオンリーで、モニター画面はカラーではなく白黒でした。続いてノート型のPCが登場し、画面もカラーとなっていました。平成の一桁の頃です。PCの進化は、まさに日進月歩でした。まだまだ高価な代物でしたが、貸与されることはなく、みんな自腹で購入していました。PCの登場から30年あまり、教職員一人一人にPCが貸与されたばかりか、児童生徒一人一人にタブレット端末が貸与され授業で活用される時代が来るなんて、夢にも思っていませんでした。

私が少年時代を過ごした昭和40年代の日本は、高

度経済成長期のただ中でした。裕福な家庭はごくわずかで、多くの家庭は豊かさとはほど遠い生活を送っていましたが、「昨日より今日、今日より明日」を実感できた時代でした。実質経済成長率が10%以上だったと聞くと、腰を抜かしてしまいそうです。物は豊かではありませんでしたが、人々の心は豊かだったような気がします。近所づき合いは今よりも濃厚で、子どもたちは隣近所の人に上がり込んで、ときには一緒に夕食をいただいでしまうようなこともあったと記憶しています。それでも近所づき合いは険悪になるようなことはありませんでした。「お互い様」の精神が、人々の心の中にしっかりと宿っていたのだと思います。

「昨日より今日、今日より明日」の時代でしたので、子どもながらに明日の向こう側に希望を見出し、将来に思いを馳せて夢を抱いていたような気がします。

バブル崩壊後、「日本の青少年は夢を語れない」と言われ続けて30年が経過しました。浮き沈みはありましたが、景気の良い時期が長期にわたりましたので、あたりまえのことなのかもしれません。加えて阪神淡路大震災に東日本大震災、そして今般の新型コロナウイルス感染症拡大です。「夢をもて」という方が、難しいのかもしれません。でも、教育だけは純粋に希望や夢を熱く語る世界だとも思うのです。

今、私の身体の中は、フランスの詩人アラゴンの言葉がぐるぐると駆け巡っています。

教えるとは希望を語ること 学ぶとは誠実を胸に刻むこと

私たち教員は、教える存在であると同時に学び続ける存在でなければなりません。私自身も生涯誠実を胸に刻み続ける覚悟を決めました。

平成28年の着任以来5年間で200号を発行することができました。その時々思ったこと、感じたことを徒然なるままに書き綴ってきましたが、あなたの教育活動のお役に立つことができましたでしょうか。「参考になった」「ためになった」ということが少しでもあれば、このうえない喜びです。

これからもずっと All Fight!の青陵中であり続けることを願いつつ筆を置きます。ご愛読くださりありがとうございました。